

<p>種名</p>	<p><u>タカブシギ</u></p> <p><u>Tringa glareola</u></p> 																										
<p>分類</p>	<p>チドリ目シギ科</p>																										
<p>特徴</p>	<p>黒い背面に白い斑点が目立つ、スマートな小形のシギ類。ユーラシア大陸の亜寒帯から寒帯で広く繁殖し、日本には旅鳥として春秋に普通に渡来する。越冬する個体もあり、近年、越冬例が増えている。</p>																										
<p>生活</p>	<p>日本では、数羽から数十羽の群れが水田、休耕田、川岸などの内陸の湿地で主に見られ、干潟にも現れることがあるが、広い干潟には出ない。クサシギよりも開けた水面で採餌する傾向があり、浅い水中を活発に歩きながら、水草やイネの切り株をつついたり水面をついばんだり、あるいは泥の中を探ったりして水棲昆虫、貝、オタマジャクシなどの小動物を捕える。尾を振ることがあるが、イソシギほどではない。繁殖期には針葉樹林に近い湿原などに棲息し、オス、メスともにディスプレイ飛翔を行う。主に地上のコケの凹みなどに営巣するが、クサシギのように樹上の鳥の古巣を利用した例も知られている。卵数は普通4個で、抱卵日数は22～23日位である。</p>																										
<p>声</p>	<p>日本では飛び立つときに「ピッピッピッ」と短い声を続けて鳴くのがよく聞かれる。繁殖地では「チュピィチュピィチュピィ」という細かな鳴き声を続けて、ディスプレイをするという。</p>																										
<p>見分け方</p>	<p>腰が四角くて白くてクサシギに似るが、上面は白斑が多くてより淡色に見え、尾の黒斑は目立たない。白い眉斑は目の後まで続く。翼の裏は白っぽい。脚は黄色く、クサシギより長くて、飛ぶと尾を長く超えて目立つ。</p>																										
<p>時期</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>4</td><td>5</td><td>・</td><td>・</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>・</td><td>・</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		・	・	・	4	5	・	・	8	9	10	・	・													
	・	・	・	4	5	・	・	8	9	10	・	・															
<p>その他</p>	<p>全長(L)22cm 翼開長(W)40cm</p>																										
<p>参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥</p>																											